

平成30年度第3回富士見市いじめのない学校づくり委員会 会議録要旨

【日時】平成31年 2月 4日（月）14:00～16:30

【開催場所】富士見市教育委員会 会議室

【出欠状況】

小林	塚田	発田	長堀
○	○	○	○

【事務局】

学校教育課長 教育相談室長 指導主事1名

【次第】

- 1 開 会
- 2 教育委員会あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 報告事項
 - (1) 富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
(平成30年度第2回生徒指導に関する調査より)
 - (2) いじめのない学校づくり子ども会議について
- 5 議 題
長欠・不登校児童生徒の実態と今後の対応について
- 6 事務連絡
平成31年度の開催予定について
第1回富士見市いじめのない学校づくり委員会
平成31年 6月28日（金）14:00 富士見市教育委員会会議室
第2回富士見市いじめのない学校づくり委員会
平成31年10月 7日（月）14:00 富士見市教育委員会会議室
第3回富士見市いじめのない学校づくり委員会
平成32年 2月14日（金）14:00 富士見市教育委員会会議室
- 7 閉 会（副委員長）

《報告事項》

【事務局】 富士見市立学校におけるいじめ等の状況についての説明

(平成30年度第2回生徒指導に関する調査より)

【委員】 いじめ、暴力行為の認知については、積極的な認知が望ましい。

【委員】 中学年で生徒間暴力が多いのは、「親」から「友だち」との関わりの変化によるものと考えられる。

【委員】 「不登校数」の変化をみるのではなく、「30日以上長期欠席者数」の変化をみていくことが重要である。

【委員】 30日以上長期欠席者数について、「その他」でカウントしているものの詳細をしっかりと掴んでおくことが大切である。

【委員】 30日以上長期欠席者の「病気」で多くみられる、「起立性調節障害」の子たちは、一般的に、つらいことをうまく表現できないことが多いので、学校の刺激や支援で、その子なりに登校できるような主体的受容の価値観をもつことが大切である。

【事務局】 いじめのない学校づくり子ども会議についての説明

【委員】 いじめのない学校づくり子ども会議での話合いが、学校の細部まで行き渡るように工夫することが必要である。

【委員】 いじめのない学校づくり子ども会議や学校での取組といじめの認知件数の変化・関係について分析していく必要がある。

《議 題》

【事務局】 長欠・不登校児童生徒への対応についてご意見をいただきたい。

【委員】 欠席、月間3日以上児童生徒の動向をみていくと、不登校の前兆がみられることがある。

【委員】 保護者を巻き込み、子どもとゆっくり過ごす・遊ぶ時間を設けていただくと不登校の解消につながることもある。

【委員】 不登校児童生徒が元気になったからと言って、すぐ学校（教室）に行けるとは限らない。焦らず、小出しにしながら進めていくことが望ましい。

【委員】不登校児童生徒には、「本人の好きなこと」で関わっていくとよい。

【委員】不登校児童生徒には、久しぶりに会ったときは、笑顔で「今日はあなたの顔を見ることができて嬉しいよ」等の温かい表情・一言が重要である。

【委員】不登校生徒には、キャリア教育（向いている職業）からアプローチするとよい。

- ①どんな職業が向いているのか。
- ②どのような力が必要なのか。（専門の方、本物に触れる）
- ③その力を付けるためには何をすべきか。（生き方がみえてくる）
- ④自然と学校に足が向く。